

**1** ('01 帯広畜産大)

【難易度】…標準

$\angle BAC = 45^\circ$  である  $\triangle ABC$  において,  $AP = 1$ ,  $\angle BAP = 15^\circ$  を満たす辺  $BC$  上の点  $P$  が存在するとき, 次の問いに答えなさい.

- (1)  $\sin \angle BAP$  の値を求めなさい.
- (2)  $\angle APC = \theta$  とするとき,  $\theta$  のとり得る値の範囲を求めなさい.
- (3)  $\triangle ABC$  の面積を  $S$  とするとき,  $\frac{1}{S}$  を  $\theta$  を用いて表しなさい.
- (4)  $S$  を最小にする  $\theta$  の値を求めなさい. また, そのときの  $S$  の値を求めなさい.

【テーマ】: 三角関数の図形への応用

**方針**

(1) は加法定理で求められます. (2) は,  $\angle ACP$  と  $\angle ABC$  を  $\theta$  を用いて表すと範囲が求められます. (3) は, 正弦定理を利用します. (4) は,  $S$  が最小となるときは,  $\frac{1}{S}$  が最大となるときであることを利用します.

**解答**

- (1)
- $\angle BAP = 15^\circ$
- であるから, 加法定理より,

$$\begin{aligned} \sin \angle BAP &= \sin 15^\circ = \sin(45^\circ - 30^\circ) \\ &= \sin 45^\circ \cos 30^\circ - \cos 45^\circ \sin 30^\circ \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{1}{2} \\ &= \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} \dots\dots(\text{答}) \end{aligned}$$

- (2)
- $\triangle APC$
- ,
- $\triangle APB$
- の内角の和について,

$$\angle APC + \angle PAC < 180^\circ, \quad \angle APB + \angle PAB < 180^\circ$$

であるから,

$$\theta + 30^\circ < 180^\circ, \quad (180^\circ - \theta) + 15^\circ < 180^\circ$$

$$\therefore 15^\circ < \theta < 150^\circ \dots\dots(\text{答})$$

- (3)
- $\angle ABP = \theta - 15^\circ$
- ,
- $\angle ACP = 150^\circ - \theta$
- であるから,
- $\triangle ABP$
- において正弦定理より,

$$\frac{1}{\sin(\theta - 15^\circ)} = \frac{AB}{\sin(180^\circ - \theta)} \iff AB = \frac{\sin \theta}{\sin(\theta - 15^\circ)}$$

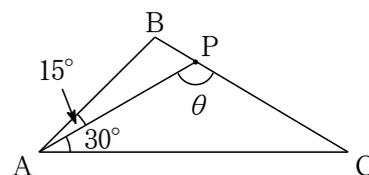
 $\triangle APC$  において正弦定理より,

$$\frac{1}{\sin(150^\circ - \theta)} = \frac{AC}{\sin \theta} \iff AC = \frac{\sin \theta}{\sin(150^\circ - \theta)}$$

よって,

$$S = \frac{1}{2} AB \cdot AC \cdot \sin 45^\circ = \frac{\sqrt{2}}{4} \cdot \frac{\sin \theta}{\sin(\theta - 15^\circ)} \cdot \frac{\sin \theta}{\sin(150^\circ - \theta)}$$

$$\therefore \frac{1}{S} = \frac{2\sqrt{2} \sin(\theta - 15^\circ) \sin(150^\circ - \theta)}{\sin^2 \theta} \dots\dots(\text{答})$$



(4)  $S$  が最小となるときは,  $\frac{1}{S}$  が最大となるときである。(3) より,

$$\begin{aligned}\frac{1}{S} &= 2\sqrt{2} \cdot \frac{(\sin\theta \cos 15^\circ - \cos\theta \sin 15^\circ)(\sin 150^\circ \cos\theta - \cos 150^\circ \sin\theta)}{\sin^2\theta} \\ &= 2\sqrt{2} \left( \cos 15^\circ - \sin 15^\circ \cdot \frac{1}{\tan\theta} \right) \left( \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{\tan\theta} + \frac{\sqrt{3}}{2} \right)\end{aligned}$$

ここで,  $\frac{1}{\tan\theta} = t$  とおくと,

$$\frac{1}{S} = 2\sqrt{2} (\cos 15^\circ - \sin 15^\circ t) \left( \frac{1}{2}t + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) = \sqrt{2} (\cos 15^\circ - \sin 15^\circ t) (t + \sqrt{3})$$

である。(1) より,  $\sin 15^\circ = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4}$  であり, 同様にすると,  $\cos 15^\circ = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4}$  を得るので,

$$\begin{aligned}\frac{1}{S} &= \sqrt{2} \left( \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} - \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4}t \right) (t + \sqrt{3}) \\ &= \sqrt{2} \cdot \left( -\frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4} \right) \left( t - \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{\sqrt{6}-\sqrt{2}} \right) (t + \sqrt{3}) \\ &= \frac{1-\sqrt{3}}{2} \{t - (2+\sqrt{3})\} (t + \sqrt{3}) \\ &= \frac{1-\sqrt{3}}{2} \{(t-1)^2 - 2\sqrt{3} - 4\}\end{aligned}$$

$t = \frac{\cos\theta}{\sin\theta}$  であるから, (2) より,

$$\frac{\cos 150^\circ}{\sin 150^\circ} < t < \frac{\cos 15^\circ}{\sin 15^\circ} \quad \text{すなわち} \quad -\sqrt{3} < t < 2 + \sqrt{3}$$

である。よって,  $t = 1$  のとき,  $\frac{1}{S}$  は最大値  $\frac{\sqrt{3}-1}{2} (4+2\sqrt{3})$  をとるので,  $S$  の最小値は,

$$\begin{aligned}\frac{2}{\sqrt{3}-1} \cdot \frac{1}{4+2\sqrt{3}} &= \frac{1}{\sqrt{3}-1} \cdot \frac{1}{2+\sqrt{3}} \\ &= \frac{\sqrt{3}+1}{3-1} \cdot \frac{2-\sqrt{3}}{4-3} \\ &= \frac{\sqrt{3}-1}{2} \quad (\theta = 45^\circ) \dots \dots (\text{答})\end{aligned}$$

◇ ----- ♡ -----

#### 解説

(2) は三角形が成立するための角の条件を考えます。内角の和が  $180^\circ$  より小さくなる必要があります。(3), (4) は計算も複雑になり比較的難易度が上がります。正弦定理や加法定理を用いて計算し, さらに (1) の計算結果も利用します。(4) は,  $S$  の最小値を求めるのですが, (3) で  $\frac{1}{S}$  を求めているのでこれをヒントにします。 $S$  が最小となるのは,  $\frac{1}{S}$  が最大となるときと考えます。ただ, これだけではダメで,  $\frac{1}{S}$  の式には,  $\sin\theta$  と  $\cos\theta$  が混在しています。これをどのように処理するかがポイントとなります。分母にある  $\sin^2\theta$  を使うと  $\frac{1}{\tan\theta}$  の式になります。そこで  $\frac{1}{\tan\theta} = t$  として,  $t$  の 2 次式にして最大値を考えようという方針で計算をしています。ただし,  $t$  のとり得る値の範囲を求めることを忘れないようにしましょう。